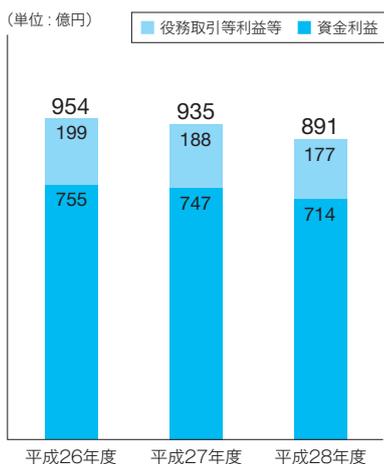


平成28年度決算について

損益の状況

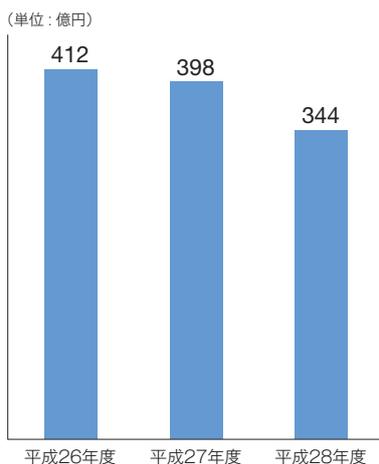
コア業務粗利益

891 億円
(前年比 △44億円)



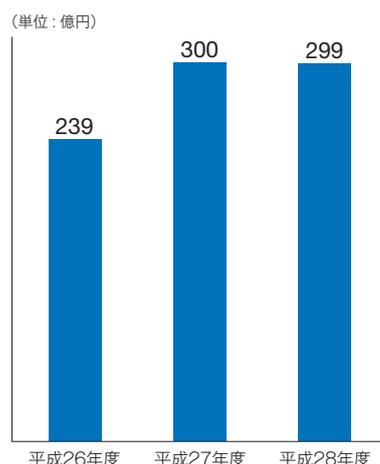
コア業務純益

344 億円
(前年比 △54億円)



当期純利益

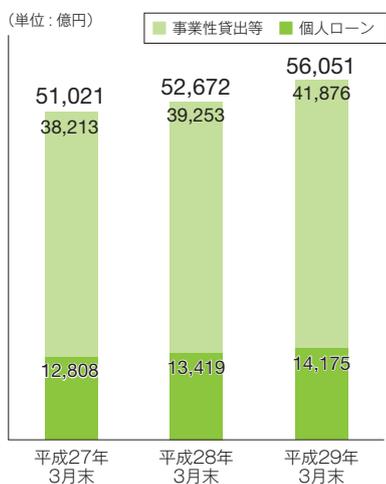
299 億円
(前年比 △1億円)



貸出金の状況

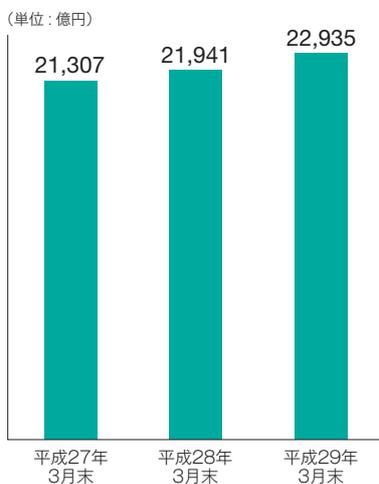
貸出金残高

56,051 億円
(平成28年3月末比 +3,379億円)



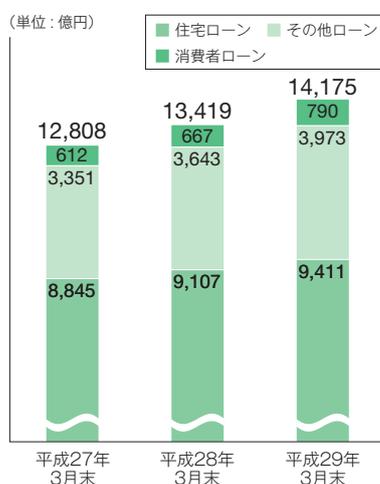
中小企業向け貸出金残高

22,935 億円
(平成28年3月末比 +994億円)



個人ローン残高

14,175 億円
(平成28年3月末比 +756億円)

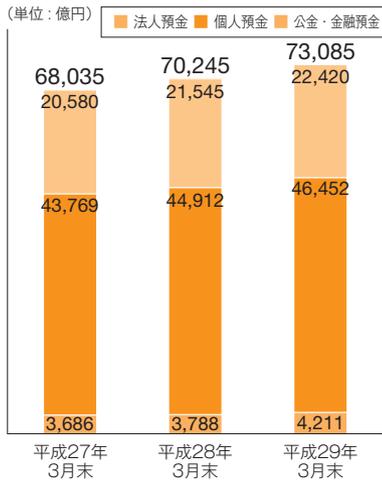


預金等の状況

預金等残高

73,085億円

(平成28年3月末比 +2,840億円)

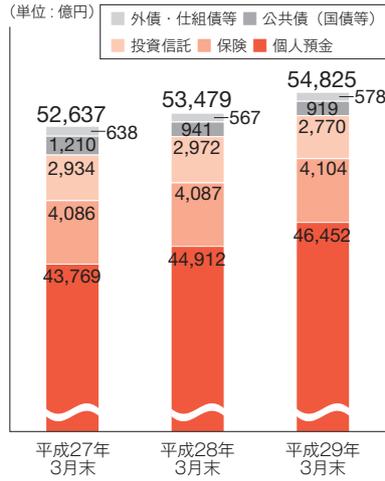


※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

個人預り資産残高

54,825億円

(平成28年3月末比 +1,346億円)



用語解説

コア業務粗利益

銀行の本業での「収益」と「費用」の差額(収支)で、経費控除前の粗利益である業務粗利益から債券関係損益を控除したものです。

「コア業務粗利益」＝

「業務粗利益」－「債券関係損益」

コア業務純益

銀行が本業でどれだけ収益をあげたかを示す業務純益から一般貸倒引当金繰入額と債券関係損益の影響を除いたものです。

「コア業務純益」＝「業務純益」

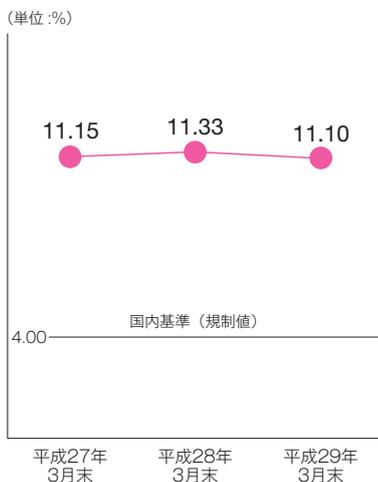
＋「一般貸倒引当金繰入額」－「債券関係損益」

自己資本比率の状況

連結自己資本比率

11.10%

(平成28年3月末比 △0.23ポイント)

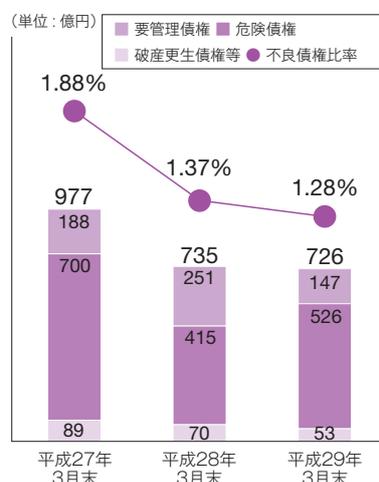


金融再生法開示債権額の状況

不良債権比率

1.28%

(平成28年3月末比 △0.09ポイント)



自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられております。

不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体(「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの)に占める割合として表されます。

※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。